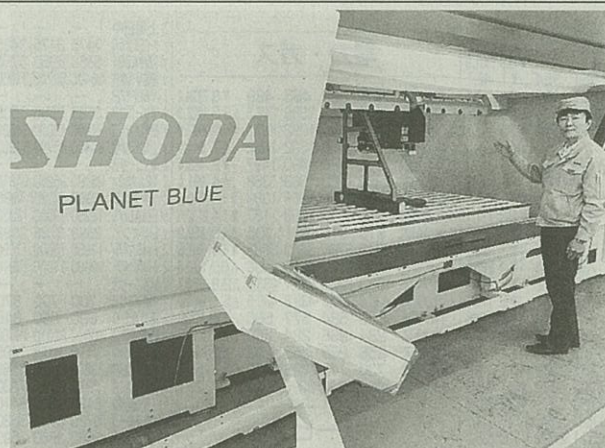




密閉タイプのNCルータについて説明する庄田浩
士社長—2014年12月24日、浜松市北区の庄田鉄工

切削粉出ない加工機

庄田鉄工 航空機部品など視野

産業用機械製造の庄田鉄工(浜松市北区、庄田浩士社長)はこのほど、切削粉が外部に出ない密閉タイプのNCルータ(数値制御式の切削加工機)「プラネットブルーSPB1-3015C」を開発した。自動車部品や航空機部品の製造工場などを視野に、作業環境の改善を提案する。

NCルータをカバーで覆って密閉構造とし、加工機部分の粉じんを圧縮空気のエアーガンで自動的に吹き飛ばすフラッシュ機能や、回転ブラシの掃除機能を取り付けた。

カバー内の密閉空間の気圧を保つプレッシャー・バランス機能により、粉じんが外に出ないようにした。一方でカバー上部はビニールカーテン状の素材とし、隙間の発生を防ぐ特別な吸着技術を採用するなどコスト抑制にも配慮した。価格は5千万円程度を想定。初年度は国内中心に10台前後の受注を目指す。

同社は本年度、CFRP(炭素繊維強化プラスチック)の加工技術開発に関連し、ボーイングと東京大生産技術研究所、国内重工業メーカーなどが経産省と進める「CMI(先進ものづくりコンソーシアム)」に参画した。

庄田社長(47)は「航空機分野も含め、欧州や国内大手メーカーなどは作業環境の改善を重視している。ブループラネットをシリーズ化したい」と話す。